

横浜国立大学大学院教育学研究科 高度教職実践専攻(教職大学院)

長期履修計画の立て方・注意事項

学生用

長期履修の手続きについて

- 長期履修をする際は、在職証明書等職業を有することを証明する書類を添付の上、「長期履修学生申請書」を指定期日までに提出すること。
- 長期履修学生として認定された在学期間は、原則として変更できないため、在学期間については入学後、申請前に指導教員とよく相談の上、了承を得て決定すること。

履修計画について

- 履修の手引き及び時間割を見ながら、各自指導教員と相談しながら履修計画を立てること。最長6年まで履修可。
- 偶数年度と奇数年度で時間割が異なるため、教職大学院ウェブサイト>学生生活のページに当該年度と前年度分の時間割を掲載している。また、当該年度の時間割巻末に次年度の開講予定期間を記載しているため、それらを基に履修計画を立てること。
- 履修科目の配置は、次頁以降に記載する長期履修計画の立て方・注意事項を参考にすること。

長期履修計画の立て方(基本の考え方)

以下の考え方を基本に、各自の状況に合わせて履修計画を立てること。

- ① 修了年次での履修が定められている学校実習科目(8単位の
実習免除が許可されている者は2単位、60時間)及び課題研
究科目(I・II)を修了年次に置く。
- ② 共通科目(16単位必修)を1年目(入学年次)と2年目に置く。翌
年度で履修する。(夜間開講科目は開設科目の半分程度のため、
最短で2年かかる。)
- ③ 1年目と2年目の空いた時間にプログラム共通選択科目、プログ
ラム別選択科目を置く。
- ④ 最初に設定した修了年次、1年目・2年目で履修しきれない科目
がある場合は、2年目と最終年次の間にさらに履修年次を設定
する。

※修了年次に、実習科目及び課題研究以外の科目を履修してもよいが、研究発表や
報告書の提出があるため、その他の科目を多く履修することは困難と思われる。

長期履修計画イメージ図 (①～④の番号は科目配置を考える上での配置順)

1年目・2年目

②共通科目を履修

③空いた時間にプログラム共通選択科目、
プログラム別選択科目を履修

④3年目～

1・2年目に履修しきれなかった共通科目、
プログラム共通選択科目、プログラム別
選択科目を履修

①修了年次

学校実習科目、課題研究科目(I・II)の
履修、研究発表、報告書の提出

1・2年目にほとんどの科目が履修できるようであれば、
①・④は同一年度でも可

長期履修者の履修上の注意

- 学校実習科目（実習免除となっている場合は2単位選択必修）
「授業改善実地研究」（2単位）または「特別支援教育授業改善実地研究（2単位）」を修了年次に履修する。《いずれかが必修。年間60時間》
- 課題研究（4単位以上選択必修）
修了年次に「学校課題解決研究I・II」（各2単位）または「学校課題解決研究I・II（特別支援教育）」（各2単位）を履修する。《いずれかの組み合わせが必修》



- ・修了年次に中間報告会、成果報告会で研究成果を発表
- ・修了時に「教育実践研究報告書」（10ページ程度）を提出

長期履修者の履修上の注意

- 修士論文相当の学術論文執筆を希望する場合《任意》
- 修了年次の前年度に「学校課題解決研究A・B」(各2単位)または「学校課題解決研究A・B(特別支援教育)」(各2単位)を履修する。
- 「〇〇の高度教育研究方法論」(〇〇には教科等名もしくは特別支援教育が入る)を修了年次に履修する。
- ※ 修士論文相当の学術論文執筆を希望する場合でも、別途「教育実践研究報告書」(10ページ程度)は提出する。
- ※ 「〇〇の高度教育研究方法論」は、専修免許状を取得するための科目には含まれない。

長期履修者の履修上の注意

- 共通科目(16単位必修)

全科目、毎年昼間時間帯(一部集中・不定期)開講していると同時に、科目の約半分を隔年で夜間にオンライン(オンデマンド)で開講する。

- プログラム共通選択科目(4単位以上選択必修)

隔年で昼間と夜間の交互に開設する科目と、集中・不定期で開講する科目がある。

- プログラム別選択科目(6単位以上選択必修)

集中・不定期科目が多いが、一部隔年で昼間と夜間の交互に開設する科目がある。集中・不定期科目については、受講者数や教員の学部授業との調整で決まることが多いので、集中・不定期科目を履修したい場合は、授業担当教員に曜日時限を確認する。